



2019年 2月 14日

各 位

東京都墨田区太平四丁目1番3号  
株式会社ペッパーフードサービス  
代表取締役社長CEO 一瀬 邦夫  
(コード番号: 3053) 東証第一部  
NASDAQ (ティッカーシンボル: KPFS)  
問い合わせ先 総務本部長 安田 一郎  
電話番号 03 (3829) 3210

## 連結業績予想値及び個別業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、2018年2月14日に公表した2018年12月期通期連結業績予想値及び個別業績予想値と実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 2018年12月期通期連結業績予想値と実績値との差異

2018年12月期通期連結業績 (2018年1月1日～2018年12月31日)

(金額の単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	62,932	4,033	4,037	2,511	121円81銭
実績 (B)	63,509	3,863	3,876	△121	△5円87銭
増減額 (B-A)	577	△169	△160	△2,632	
増減率 (%)	0.9	△4.2	△4.0	-	
(ご参考) 前期実績 (2017年12月期)	36,229	2,298	2,322	1,332	66円13銭

#### 差異の理由

2018年12月期通期連結業績は、ペッパーランチ業態及びいきなり!ステーキ業態は、国内年間218店舗出店 (ペッパーランチ業態18店、いきなり!ステーキ業態200店) を目標にスタートが切れ、当期間における国内の出店は、219店舗 (ペッパーランチ業態17店、いきなり!ステーキ業態202店)、海外子会社の店舗出店は、9店舗 (いきなり!ステーキ業態) となりました。

国内における、ペッパーランチ業態及びいきなり!ステーキ業態の売上高及び利益は、順調に推移いたしましたが、当社海外子会社運営のいきなり!ステーキ11店舗において、7店舗の退店を見込んでいること及び継続する4店舗における収益性改善が長期化することから2018年12月期第4四半期において減損損失1,158百万円、退店が見込まれる店舗及び不採算店舗において、物件リース契約に係る残契約年数に対し、リース料の回収が見込めない部分及び不動産仲介会社に対する手数料等を事業構造改善引当金繰入額として1,310百万円を特別損失に計上いたしました。

これらの結果から、前回発表の2018年12月期通期連結業績予想に対し、売上高が577百万円上回りましたが、営業利益が169百万円、経常利益が160百万円及び親会社株主に帰属する当期純利益が2,632百万円下回りました。

## 2. 2018年12月期通期個別業績予想値と実績値との差異

2018年12月期通期個別業績（2018年1月1日～2018年12月31日）

（金額の単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	59,664	4,048	2,521	122円30銭
実績（B）	62,650	4,798	△530	△25円57銭
増減額（B－A）	2,986	750	△3,052	
増減率（％）	5.0	18.5	-	
（ご参考） 前期実績（2017年12月期）	35,926	2,655	1,667	82円75銭

### 差異の理由

2018年12月期通期個別業績は、ペッパーランチ業態及びいきなり！ステーキ業態は、国内年間218店舗出店（ペッパーランチ業態18店、いきなり！ステーキ業態200店）を目標にスタートが切られ、当期間における国内の出店は、219店舗（ペッパーランチ業態17店、いきなり！ステーキ業態202店）となりました。

国内における、ペッパーランチ業態及びいきなり！ステーキ業態の売上高及び利益は、順調に推移し経常利益は増加しましたが、海外子会社の業績悪化に対する特別損失として、子会社株式評価損を611百万円計上、貸倒引当金繰入額を1,919百万円計上及び債務保証損失引当金繰入額を1,268百万円計上いたしました。

これらの結果から、前回発表の2018年12月期通期個別業績予想に対し、売上高が2,986百万円及び経常利益が750百万円上回りましたが、当期純利益は3,052百万円下回りました。

（注）上記に記載しております業績予想に関しましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社にて判断したものであり、リスクや不確定要素が含まれており、実際の成果や業績等は記載の予測と異なる可能性があります。

以上